

# 勾玉 まがたま

勾玉とは、C字形のように湾曲し、一端に孔のある玉をいいます。このような形の玉は、朝鮮半島の一部を除いて、ほかではみることができません。勾玉は縄文時代から奈良時代に至るまで、首飾りなどの垂飾りとして愛用されました。

## 縄文時代の勾玉



かっせき  
滑石製

長さ  
2.8cm

重さ  
4.3g

うたや  
雅楽谷遺跡 (蓮田市)



へきぎょく  
碧玉製

長さ  
2.5cm

重さ  
4.2g



こうぎょく  
硬玉製

長さ  
2.7cm

重さ  
6.1g

いしがみ  
石神貝塚 (川口市)

勾玉の起源には、動物の歯牙に孔をあけた垂飾りが原型であるという説、生まれる前の胎児を模したという説など、諸説あります。近年は、縄文時代前期に流行した環状の飾り玉の半欠品から発展した、という説が有力です。この時期の勾玉には、頭や腹に突起や刻み目があるものがみられます。

## 弥生時代の勾玉



碧玉製

長さ  
2.2cm

重さ  
4.3g

すぐるじんじゃ  
須黒神社遺跡 (さいたま市)

土製勾玉



長さ 2.4cm  
重さ 2.9g

たまふとおか  
玉太岡遺跡 (東松山市)



長さ 2.7cm  
重さ 3.9g



長さ 3.1cm  
重さ 4.8g

おののだにし  
大野田西遺跡 (嵐山町)

弥生時代になると、頭が丸く尾にかけてきれいに湾曲する定形化した勾玉が出現します。土製の勾玉は、関東地方では弥生時代後期に盛んにつくられるようになります。竪穴住居跡から出土する例が多く、屋内で行われた祭祀に使われたものと考えられています。

## 古墳時代の勾玉



国宝

ヒスイ製

長さ  
4.0cm

さきたまいなりやま  
埼玉稻荷山古墳 (行田市)



メノウ製

長さ  
3.4cm

重さ  
7.8g

とんぼ  
蜻蛉遺跡 (草加市)



メノウ製

長さ  
3.4cm

重さ  
9.1g

いなりまえ  
稻荷前遺跡 (坂戸市)

古墳時代の中頃には、勾玉は鏡とともに権威を象徴する宝器として取り扱われるようになります。後期になると豪族の装身具として量産され、頭と尾が角ばる「コ」の字に近い勾玉が流行します。文献史学では、「玉」は「魂」に通じるとされ、玉を身につけることは霊威を身につけることを示すという考え方もあります。



大型の勾玉の側面や背・腹に小さな突起をつくりだしたものをいいます。凹字状の突起を勾玉に見立てて、子持勾玉と名付けられました。古墳時代の5世紀中頃に出現し、7世紀後半まで出土例があります。突起の数や形はさまざまで、省略化が進むと突起は失われていきます。子持勾玉は玉のもつ霊力を増幅させる呪術的な遺物と考えられています。多産や豊穰など、増殖を願う祭祀に使われたのかもしれませんが。



滑石製  
長さ 10.1cm  
重さ 287g

あきやまおおまち  
秋山大町遺跡 (本庄市)

写真提供：  
本庄市教育委員会



滑石製 長さ 7.5cm 重さ 81.4g

しもだまち  
下田町遺跡 (熊谷市)



滑石製 長さ 9.8cm 重さ 65.9g

じょうしきめん  
上敷免遺跡 (深谷市)



滑石製  
長さ 11.8cm  
重さ 113.5g

きたおおたけ  
北大竹遺跡 (行田市)



滑石製 長さ 10.0cm 重さ 181g